

大杉谷国有林からの手紙

43通目～大杉谷に今も残る

歴史的遺構を訪ねて～

大杉谷は数ある国有林の中でも特に歴史が長く、文献によると初めは平安時代（弘仁朝810年～824年）まで遡ります。また江戸時代での御杣山（江馬山、江馬大杉と記載）、明治時代～戦後までを帝室林野局管轄の御料林とし、管理・経営が行われており、今でも森林鉄道を始めとする多くの遺構が残っています。

今回の手紙では、以前ご紹介した38通目とは切り口を変えて、苗木の植林などに関する歴史的遺構についてご紹介したいと思います。

(1) 千尋苗圃（せんびろびょうほ）跡

大杉谷は、江戸時代から御杣山として伊勢神宮の式年遷宮用の木材を出材していましたが、植林については比較的新しく明治時代に遡ります。明治23年に西端の御料林に編入され、明治32年に「御料林施業案編成準則」が作成された後、本格的な事業を開始しスギ1.6haが植林されました。これが文献で確認できる初めての植林事業です。

写真1は大杉谷の千尋地域に作られた林間苗圃（苗木の畑）で大正末期の写真です。植林する苗木は、写真のような林間苗圃に種を撒き、大きく育てた苗を植えていました。種からはあまり育たなかったことから、後年は旧船津村（現在の紀北町船津）に新しく苗圃を設け、2年育てた苗を山へ運んで、さらに1～2年育ててから植林していました。



大正末期における千尋の林間苗圃（畦地唯男氏提供）

写真1 昔の千尋苗圃（大杉谷施業変遷史より）



写真2 石積みの跡が現在も残存している

次に苗木の運搬方法について調べて見ると、村から山まで人力で遠い道筋を写真1の林間苗圃や他所の苗圃まで運んでいたようです。

現在の大台林道を紀北町船津から千尋の国有林境まで向かう場合、延長約11kmを車で40分～50分程度かかるため、人力での運搬は途方もない距離と時間が掛かったことがうかがえます。

文献にも大正から昭和初期に作業に当たったOBの方の感想で、「人力での運搬は大変な重労働で遠い場所への運搬は1日6食分のワッパ（木で作った丸形の弁当箱）を持って作業していた」との記載が残っています。

先ほどの文献の記載を見て何処にあるのか気になり、実際に写真を撮りながら、苗圃跡地(写真2)や運搬道の形跡を歩いてみましたが、国有林内の範囲を歩いただけでへとへとになってしまいました。明治時代の植林は、1ha 当たり6000本、大正・昭和初期は3000～4500本を植えていたことから、「大杉谷の険しい山や谷を歩いて、よく人力で多くの苗木を運んだなあ～」と当時の人々の脚力の強さに驚嘆するとともに当時の苦勞が偲ばれます。



写真3 千尋苗圃跡地のスギ・ヒノキ林分

戦争が終わり昭和22年の林政統一後に大杉谷国有林として編入され、その後昭和30年代の大台林道の開通により、苗木運搬の利便性が向上したため、林間苗圃は随時廃止されていきました。大杉谷からの手紙38通目でご紹介した森林鉄道・インクライン・東洋一と言われた大杉谷索道もこの時期に随時廃止され、林道を用いたトラック運搬の時代へと変化して現在に至ります。

現在の苗圃跡は写真3のようなヒノキ等の人工林となっています。ずらっと歩道上に一列に並ぶ姿は壮観です。林齢は約70年生で2019年現在で、戦後74年が経過していることから、戦後伐採した時に他の箇所とともに、廃止となった苗圃跡に植えられたのではないかと推察されます。

(2) 岩肌に作られた苗木保管庫



写真4 岩肌をくりぬいた苗木保管庫

粟谷小屋に向かう途中の林道を走行していると、切り立った崖の裾の部分にコンクリートで周りを固められた洞穴のような構造物を見つけました(写真4)。

大きさは縦、横1.5m・奥行5mほどの空洞で、中には木製の棚が並べられていました。詳しく知るOBの方に話を伺うと、その昔、町にある苗畑から運搬された苗木を保管しておく保管庫だったそうです。

これは道沿いであって、大台林道着工開始の昭和32年以降に作設されたと推察され、歴史は浅いですが昔の造林事業の痕跡を見ることができる貴重な遺構の一つです。

またこの保管庫に関しては、別の方からも面白いお話を伺うことができました。その方がおっしゃるには、雨がしとしとと降る中、車で林道を走っていた時、暗い穴の中に4つの玉のようなものが光っていたそうです。何事かと思い、車を止めて恐る恐る中を覗いてみると、写真5のような曇りない眼のシカが二頭じっと入口の方を見ていたそうです。何もいないと思っていたのに急に目が合っるととてもびっくりしたとのことでした。

確かに中は少しひんやりしていますが、しっかりとした作りで雨風を凌げるため、シカにとっても絶好の雨宿りポイントだったようですね。



写真5 たまに雨宿りしています

まとめ

長い歴史を経た大杉谷国有林には、記録として留めておきたい遺構が今回紹介した物以外にも数多く残されています。しかし過去から現在、そして未来へ連綿と続く時代の流れにより、記憶が薄まるとともに風化し、忘れ去られてしまう事もあると思います。

この手紙を通して、少しでも大杉谷の歩んできた歴史を未来の世代に伝え残していく為の手助けとなれば幸いです。長文となりましたが最後まで読んでいただきありがとうございました。

参考文献

- ・御料林大観, 1934, 帝室林野局内林野會 発行
- ・大杉谷国有林のうつりかわり, 1979, 尾鷲営林署 編
- ・大杉谷国有林の施業変遷史, 1981, 尾鷲営林署 編
- ・-大台ヶ原・大杉谷- 山のぬし 山男50年間の記録, 2010, 吉田金好

発行: 三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官